

午後 2 時 00 分 開始

【秘書広報課長補佐】 定刻の時間となりましたので、ただいまから平成24年7月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、5項目について事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表からお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へ進行したいと思っております。なお、終了は15時を予定しております。ご協力のほどお願い申し上げます。

【市長】 それでは、7月になりまして定例会見でございますけれども、ことしの梅雨はどちらかというと空梅雨の様相でありまして雨が余り降らないと、特に農家の方は非常に心配をされておりました。ところが、きのうかなりまとまった雨が降りまして、余りにいっときに降ったものですからちょっと冠水したところもございましたけれども、結果的には農業にとって大変いい雨じゃなかったのかなというふうに思っております。まだ梅雨真ただ中でございますので、これからも情報をしっかりと収集をして災害にならないように、またちゃんとした連絡もしっかりとって、やはり住民の皆さん方が安心して暮らせる、そのような体制に気を引き締めて取り組んでまいりたいなというふうに先ほども庁議で確認をし合ったところでございます。

特に7月は、また後ほど発表させていただきますが、いろいろな行事ごと、また交流事業もたくさんございますので、これからも夏場に向けて多くのお客さんもお越しになる時期でございます。しっかりとしたおもてなしをもって敦賀のまちをこれからPRしていきたい、このように思っております。

それでは、座って、事業発表をさせていただきます。

まず第1点目は、24年度の敦賀市採用候補者の後期試験の実施でございます。

お手元の資料に配付してありますとおりでございます。このような形で採用試験のほうを行ってまいりたい、このように思っているところでございます。

次に、つるが「鉄道と港」フェスティバルであります。ここに書いてあるとおり、後日、実行委員会の田中会長のほうから記者会見をするというふうなことを伺っておりますので、そこでぜひ実行委員会の皆さん方にいろいろ質問などもしていただきたい、このように思っております。私のほうからは以上であります。

次に、ラムサール条約湿地登録の認定証授与式の出席であります。

7月6日からルーマニアの首都ブカレストで開催をされますラムサール条約第11回締約国会議におきまして中池見湿地が認定をされますので、認定授与式に私が出席をいたします。7日にはブカレストの国会宮殿で開催される日本国主催のサイドイベントにも参加をする予定でございます。スピーチをしなくてはならないということではありますが、英語でということでもありますので、相当これは練習をしていきませんと理解が得られませんが、決してアドリブは挟もうと思っても挟めないという状況でございます。原稿のとおり読む予定でございます。しっかりとすることを言ってまいりたい、このようにも思っているところでございます。

日程表等につきましては以下のとおりでありますけれども、NPOの皆さん方も私費で参加をするということで9名の方が来ていただける予定で、トータル12名で行ってまいります。

ただ、ルーマニアというのは余り治安がよくないという話も聞いておりますので、自分の身は自分で守るというようなことをしっかりと、ボディガードを兼ねて行きたいなというふうに思っております。逆に言うと、ほかの皆さん方のボディガードを私がせないかんのかなというふうに、そのような気持ちでしっかりと安全に皆さんを連れて行って連れて帰ってまいりたい、このようにも思っております。

次に、七夕のライトダウンの実施でございます。

ライトアップというのはよく聞きますけれども、環境問題等々を考えながら、今度はライトダウンキャンペーンを実施したいなというふうに思っているところでございまして、七夕の7日でございますが8時から10時の2時間を消灯していきたいと思っております。ただし、

防犯また安全面から必要とされる照明につきましては従来どおり点灯をしておきたい、このように思っています。

続きまして、海外姉妹都市との交流事業でございます。

台州市のほうから使節団が参ります。また、子供たちは韓国へ行きますし、ロシアのほうは今回30周年ということでございますので、私たちを含めて、つるが鷹隊の皆さん方も行っていただいて交流を深めてまいりたいと思っております。これも以下、記載のとおりでございます。

私のほうからは以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました5つの項目についてご質問をお受けしたいと思います。きょうは幹事社さんご欠席されておりますので、各社からお伺いをしたいと思います。よろしく願いをいたします。

特にございませんでしょうか。——それでは、ないようでございますので、次第の3番目へと移っていきたいというふうに思います。

フリーの質疑応答へと行きたいと思えます。これも各社のほうからございましたら挙手をお願いをいたします。

【記者】 もう聞かれているかもしれないんですが、大飯原発の3号機がきのう9時に起動して、けさ臨界を迎えて、今のところ無事運転しているようではすけれども、2カ月ほど原発ゼロの期間が続いた末の起動ということで、市長の感想と伺いますか、それをまずお聞かせ願いたい。

【市長】 しばらく原子力発電所による発電がゼロという時期が続きましたけれども、いろんな国の判断、また安全確認もしっかりして、国が太鼓判を押して再起動という形になったというふうに理解をいたしております。ぜひ関係者には引き続きましてと伺いますか、これまで以上に気を引き締めて作業に取り組んでいただいて安全運転の実績等をしっかり積み上げていき、また、国民も心配している方が非常に多いわけでございますので、そういう皆さん方にもしっかりやっていけば大丈夫なんだという、そういうものをぜひ知っていただくように努力をしていただきたいなというふうに思っているところでございます。

【記者】 関連で、大飯原発3号機、それから4号機も再起動するということになりますけれども、それ以降の再稼働というのは今のところ見通せないような状況です。ただ、9月までに新たな規制組織というのが立ち上がって、そこで基準がつけられていくと思うんですけれども、新たな基準がつけられるまでの時間というのが結構かかるんじゃないかというふうに言われています。中には10カ月とか1年とか。今、暫定的な安全基準で判断して大飯原発3、4号機が動いていますけれども、今後、大飯3、4号機以降の再稼働を判断するに当たって、暫定的な安全基準で新たな基準ができるまでは判断すべきと考えるか、新たな基準ができるまで待つべきかという、どういうお考えでしょうか。

【市長】 それぞれの発電所というのは立地している場所が違います。その知事、また立地の首長の皆さん方、当然議会も一緒であるというふうに思いますが、そういう皆さん方の判断にゆだねられているんじゃないかなというふうに思います。

理想を言えば、やはり安全基準がしっかりできて規制庁が立ち上がってできるほうがいいというふうには思いますが、今回の暫定的な安全基準につきましても、名前的には暫定的ではありますがけれどもかなりしっかりした基準であるというふうに思っておりますので、そういうものをそれぞれの地域の皆さん方が判断をして決めていただければいいと思えます。

【記者】 きのうの大飯3号機の起動と、けさの臨界が順調にトラブルなく立ち上がったということに関して率直な感想をいただきたいのと、もう1点、きのう大飯原発の前で反対派が物すごく集まってきて抗議活動をされたんですけれども、そのことに対する感想をお願いいたします。

【市長】 トラブルなく安全に再起動されたということは、それぞれ関係者の皆さん方がしっかり気を引き締めて臨まれた結果だというふうに思えますので評価したいなというふうに思えます。

それと反対される皆さん方もたくさん集まってということではございますけれども、何かインターネットでの呼びかけによって集まる方もたくさんいらっしゃるということであ

りますけれども、何か反原子力運動がストレスの発散場所みたいな感じであって、そういう皆さん方が騒がれているような気もしてならないということで非常に残念に思っております。やはりもっと冷静にエネルギーのことを、そういうことを議論して、そしてまた冷静にお話しされればいいですけれども、原子力発電所が魔女狩りに遭っているようなもので、何か悪いものであるというようなイメージだけ持たれて活動されているというのは非常に残念に思っています。

【記者】 関連で、そういった方たちに理解を得るために国や立地自治体がどういうふうに関わりかけていけばいいと思いますか。

【市長】 やはりもっと丁寧に説明をしてあげてほしいというふうに思います。だからもちろんそういう政府なり関係者もしなくてはなりませんけれども、反対される方も聞く耳をやはり持っていただきませんか、やみくもに反対であると、何が何でも反対であるというような、マスコミ報道などの映像を見るとそのように感じてなりませんので、説明する側もしっかり説明する、また聞く側も冷静に聞く耳を持って、やはりそういう話し合いをしていくことが大事ではないかなと思っています。

【記者】 さっきの関連で、私もきのう大飯原発のほうへ行って来たんですが、反対派の人たちが数百人、原発の前で座り込んで、車で道路を封鎖して、陸路で人の出入りとかそれから物資の搬入等ができなくなりまして、副大臣とか町長なんかは船を使って海から入られたんですが、数百人程度のデモでそういった陸路が閉鎖されるということで、防災という面で少し不安に思われたりとか脆弱さを感じられたということはないでしょうか。

【市長】 阻止する側は真剣になって入るのを阻止しようという一つの活動でありますので、それと防災面、これは自然災害を想定するのかわかりませんが、それでも海路を使って入ったりできるということでもありますので、そういう面では災害についても陸路のみならず空路、海路、そういうものを十分活用して速やかな避難、また速やかな制圧ができるようにしていけばいいというふうに思っています。

【記者】 関連になるんですけれども、今後、敦賀でもあんな大飯のような状況というものがまた発生するという可能性もあるのではないかなと思うんですけれども、その場合の対応はどういうふうにされるご予定ですか。

【市長】 これはいつになるかはわかりませんが、運転再開というところを迎えられればいいんですが、うちはそこまでの状況になっておりませんので、どうなるかなということはまだ考えておりません。

【記者】 きのう僕も現地に行っていたんですけれども、起動の前日の夜、もしくはその前から反対派の方が集まってきて、そのときに警察が着手していればあんな陸路の封鎖というのはなかったと思うんですけれども、警察の対応についてちょっと遅かったのではないのかとか、そういう思いはありますか。

【市長】 私もその現状を余り把握してないものですから、先ほどの質問ではありませんけれども、私どもでもそういうことがあれば、大飯のいろんな事例を参考にさせていただいて、反省点は反省点として踏まえてしっかり対応できるようにはしていきたいなと思います。

【記者】 今度ルーマニアにラムサール条約、中池見湿地登録の締結式に行かれるということで、改めて湿地の保全に向けての意気込みとかそういうことを教えていただきたいので。

【市長】 ラムサール条約登録に向けてということは、かなり前からそういう声も上がり、私どももそういう登録ができたらいいなという思いの中でこの運動を展開してまいりまして、ようやく認定式までこぎつけたかなということで大変喜んでおります。

ただ、やはりラムサール条約に登録されたからには、未来永劫、中池見湿地をしっかりとした重要な湿地であるという認識の中で残していかなくてはならないということで、これからは大変だなという実は思いもしておりますので、ぜひ民間の皆さん方と力を合わせて、また行政の立場の中でもしっかりと残せていけるように。

また多くの人に知っていただくことも重要であります。今度は余りたくさん人が来過ぎて困るしという、ちょっとジレンマはあるんですけれども、最終的にはしっかりと残していくように努力をしたいというふうに気を引き締めております。

【記者】 今の関連になるんですが、たしか来月でしたか、市内のほうでもこれに関する式典か何かをやるというふうに言っていたと思うんですけども、あれの日程は決まったんでしょうか。

【市民生活部長】 8月4日、午後1時30分から、きらめきみなと館の小ホールのほうにおいて式典を考えております。そのときには講演会とパネルディスカッション、こういったものと考えておまして、今準備等の方向に入っているという状況でございます。

【記者】 どなたを呼ばれるとか、そういったものはもう決まっているんでしょうか。

【市民生活部長】 講演会につきましては、京都大学の名誉教授で日本生物多様性防衛ネットワークの方、それからもう一人は日本環境学会幹事で地形・地質学専門の方、それからもう一人は神戸大学大学院の理学研究科の教授で水草の生態学の専門家、そういった方々に来ていただきまして講演会をしていただくということと、もう1点として、パネルディスカッションにつきましては、パネリストとして3名の先ほど言いました方々、コーディネーターに関しましては国立環境研究所の生物・生態系環境研究センター室長ということで今考えてございます。

【記者】 また原発に戻るんですが、再稼働問題、きのうの起動をもって一応終わりといえますか、ある程度方向性が見えたと思うんですが、この再稼働問題については消費地と、それから生産地のお互いの考えのずれとかのいろんな問題があるという報道がいろいろあるんですけども、市長ご自身として、この一連の再稼働問題でお感じになった問題点とかもしくは現状が何かありましたら、振り返ってみてちょっと一言お願いします。

【市長】 この再稼働問題については、エネルギーをどうしていくか、また夏場をどう乗り切るかということも含めていろんな議論がされました。そういう中で、やはり福島の事故がまだ収束していないという状況でありますので、多くの皆さん方が心配していることも事実であります。そういう意味では両方心配です。要するに、エネルギーを確保しなくては国民生活の心配がある、また稼働することによって、やはり事故が起きたという現実がありますのでそういう心配がある。心配と心配がぶつかり合ったようなものでありますので、そういう面では非常に大きな課題であり問題であったなというふうに思っています。

ただやはり現実的に物を考えたときに、本当に間近に迫ったエネルギー不足等々、これが直ちに自然また再生可能エネルギーで同時にすぐ賄えるようなものでないということも皆さんわかっていると思いますので、そういうところから現実的な選択をされたというふうに思っています。

そういう意味では問題点というのは、私に言わせれば少し時間がかかり過ぎたのかなという点はあるというふうに思いますけれども、もっと議論をスピーディに行って、再稼働についてはもっと早く取り組めていたらなということは感じています。

また、消費地と生産地のことでありますけれども、大方の皆さん方は、心配は心配だけれども、でもやはり必要だよねという皆さん方もいることは事実でありますので、そういう点では人間生きていけば多少のリスクというものはありますので、そういう分野をしっかりと見詰めていけばある程度理解は得られるものではないかなというふうに私は思っています。

どこが問題点で何がということは、はっきりお答えにはなっていないというふうに思いますけれども、以上です。

【記者】 関西の首長からかなり反発があったんですが、あれほどの反発というのは市長自身としては予想されていたことなのか、それとも意外だったのか、どうでしょう。

【市長】 ある程度予想といいますか。といいますのは、それぞれ政治家というのは選挙を抱えています。選挙をするというからには、選挙をする皆さん方がどういうことを考えているかということを知りたくてはなりませんので、福島の事故を見てどなたもやはり原子力は危ないな、怖いなと思っている中、また原子力に対して非常に批判の風が多い中で、いや、そんなことはないんだというようなことを言えば当然選挙にかかってきますので、そのあたりを最大考慮しながら発言をされていったというふうに思います。ただ、現実的にそうなるとうとうと本当にそれぞれの住民の生活も大変であるということも理解されて、やはりあのようにならざるを得ない状況になってきたので、それもおく普通のことだというふうに思っております。

だから反発される皆さん方は、私は予想どおりでありますし、私どもも、もし発電所のない地域にいたらそのようなことを言っていたかもしれないなというふうに思っています。

【記者】 先ほどの質問で、ちょっと時間が長くかかり過ぎたんじゃないのかということをおっしゃっていましたが、ストレステスト、現状では安全委員会が最終的に判断しますけれども、それからきのうの大飯3号機みたいに起動するまでの期間で理想的な期間はありますか。ストレステストでオーケーが出たらどれぐらいで起動まで持ち込んでほしいか。伊方以降どれぐらいの期間ですぐやってほしいのかということはありませんか。

【市長】 現時点は暫定的な安全基準のもとではありますけれども、ストレステストを行って、それで確認がされて、保安院なりも大丈夫ですと。場所によって、例えば地震の多い津波が発生しやすい場所とか、いろんなまた地形など場所が違いますので、それはそれぞれのところでの判断というのがあるというふうに思いますが、特に大飯、高浜ですと、先ほど言いましたようにそういう心配点も非常に少ないところですから、ストレステストが終わって速やかに再稼働に向けて動き出すべきではなかったかなと思います。そういう流れでいけば、恐らく5月には再起動していたんじゃないかなというふうに私は思っています。

【記者】 敦賀原発の場合、もしストレステストのオーケーが出たとき、そこからどれぐらいで起動まで持ち込んでほしいかという理想の期間はありますか。

【市長】 私どものところはいろいろまだ調査をやらなくてはならない段階であります。それと私どものところが再起動なりの判断のときには恐らく規制庁もちゃんと立ち上がっているような状況になっているというふうに思いますので、そういうことを考えていけば、暫定的じゃなくて新しい安全基準のもとで再稼働に向けての議論をしていけばいいというふうに思います。そういうものをしっかりクリアしていき次第、再起動すればいいというふうに思います。

【記者】 北陸新幹線なんですけれども、この間、正式にやっと認可されましたけれども、並行在来線の話とか県といろいろ協議した部分あると思うんですけれども、今、市として当面、北陸新幹線に絡む市のほうの動きとかタイムスケジュール的なものでお考えになっていらっしゃるものがありますか。例えば市のほうのまちづくり協議会をつくるなりとか、組織改編するなりとなれば年度内とかで考えているものとか、何かございますか。

【市長】 まず認可いただいたばかりでありますので、今そういうものをどのような形で立ち上げるのかをまず検討する段階だというふうに思っています。開業を目指してといっても、ご承知のようにまだ十数年時間もかかりますので、その逆算をしていきながらある程度組んでいってもいいんじゃないかなというふうに思います。当面は、認可がおりたということは工事にかかれますので、議会でも話が出ていましたけれども、やはり敦賀側からの着工も含めてそういう運動をしっかり展開をしていく。

それと並行在来線問題については、これは少し時間をかけながら市民の皆さん方の利便性の低下につながらないように十分に考えてしっかりと運動を展開しますけれども、そういう意味で開業を一つの目標の中で逆算をしていって、どの時期にどのようなものを立ち上げてしっかりやっていくかということ、それは組む必要がございます。やはり通過点にならないようにといういろんなご指摘もいただいておりますので、そういうものを含めて当面、東京発敦賀駅の新幹線が13年後ぐらいには来る予定でありますから、そういうものを見据えてしっかりとしたまちづくりをする。まちづくりも現在、中心市街地、また駅周辺を含めてやっておりますので、そういうものをしっかり完成をさせておいて受け皿をしっかりつくっておきたいなというふうに思っております。

【記者】 となると、ことしの4月に機構改革で政策推進課のほうに室を設けましたけれども、本格的な今回の正式認可を踏まえての組織改編というのはやっぱり来年度、新年度からということになるんでしょうかね。

【副市長】 今年度は、まず認可になって次のステップは地元説明会とか線形の問題とかいろんなことが出てくると思うんですが、当面は企画政策のほうで行ってきたいというふうに思います。そういう詳細が明らかになった時点において本当に、例えば都市整備でやったほうがいいのか、そこら辺はまた別な判断になるというふうに思います。当面は今

の体制でやっていきたいと思えます。

【記者】 先ほど私、暫定基準の話で質問したときに、それぞれの地域で判断していけばいいという話だったんですけれども、僕の質問の趣旨としては、国が安全性を確認する上で、その基準を正式に決めるまでの間、空白ができればいいので、今暫定というのがあるんですけれども、国が判断する上での基準ができるまでは待つべきなのか、それとも暫定基準という名のもとで今ストレステストが終わっているものから順に暫定基準のもとで判断していくべきなのかというのを聞きしたかったんですけれども。

【市長】 名前は暫定基準といいますけれども、恐らくそんな不備のある基準ではないと思えます。安全基準がそのまま、それが180度変わるわけでもありませんし、多少脚色はあるかもしれませんが、ほとんど今の暫定基準と変わらない基準がちゃんとした基準として今度は出ますので、だから今の暫定基準というものも私は有効だと思っています。あれが有効でないと思っていたら当然起動するとかしないという話ではありませんし、ちゃんとした安全基準をつくと物すごく実は時間がかかりますので、そういう細部の部分についてはまた細かいことはできていきますが、大まかなところを言えば今の暫定的な安全基準でも十分安全基準を満たすべきものであるというふうに考えています。

【記者】 そうしますと、新たな基準がしっかりできるまでの間は暫定基準で審査なりを国がしていくべきだという考え方でよろしいですか。

【市長】 はい、そのとおりです。

【記者】 北陸新幹線の件なんですけれども、今回の認可を受けまして、駅舎のほうの工事等をいろいろやっておりますけれども、このあたりに対する影響といいますか、あるいは駅西地区の整備そのものに対する変更というか、そういったところというのは今のところ何か決めたりするんでしょうか。

【副市長】 ある程度のところは、いわゆる中央通路につきましても織り込んでやっています。今後、線形とか、あるいは新幹線がどこの高さで入ってくるとか、そういったことが公に今度は議論できるようになったということで、これからだというふうに思えます。今の計画自体は、ある程度のことは全部織り込み済みでやっていますので、大きな変更はないというふうに思えます。

【記者】 関連で、新幹線の駅というのは今JR敦賀駅があるところから少しずれるので、駅前からするとかなり離れているところかと思うんですけれども、そういう意味では駅前と、言葉はあれですけれども駅裏というか、の行き来というのがこれから必要になってくるのかなと思うんですけれども、そういう点では検討するということはあるんですか。

【副市長】 確かに駅自体が新幹線の駅と在来線の駅と2つに分かれますし、そういうふうに切符を持った人が通路を使う、あるいは人が新幹線の駅を使うんじゃなくて自由に行ける通路とか、あるいは自転車とか、あるいは車とか、そういったことを含めた駅の東西を結ぶ交通計画というのは、きっちりやらなければだめだというふうに思えます。

それもある程度のところは織り込みながら今計画してはいますけれども、詳細が出てこない、なかなかそこら辺を今の段階において申し上げることはできない状況ですね。

【記者】 もう一つ関連で、東西方向の例えば道路を整備するとなると、15年弱、期間的にはそのぐらいになると思うんですけれども、多分実際に整備をするとしてもかなりの規模になると思いますので、数年以内にはある程度の方向性を出さないと時間的には間に合わないんじゃないのかなと思うんですけれども、その点についてはどうでしょう。

【副市長】 これも議会で申し上げておりますけれども、やはり2025年開業ですから十二、三年後の話でしょう。だからそれは必ずしも今のおっしゃった質問から言えば十分な時間ではないんですね。ですから余りいろんなことをなござりにしながらやっていると少し時間に間に合わなくなる可能性もあります。これは大きな計画あるいは事業費を伴うものです。ここはしっかりと、計画がもう認可されたんですから、速やかに協議に入っていかなければならないだろうというふうに思えます。

【記者】 課題の部分で時間がかかり過ぎたとおっしゃった部分なんですけど、どういったプロセスのところを指しているんでしょうか。

【市長】 やはり政治的な判断だと思えます。

【記者】 敦賀原発のことでお伺いしたいんですけども、民主党だと思んですけど、国会議員のグループが敦賀原発の1号機が最も危ない原発に選んでいましたけれども、そのことに関して何か思いはありますか。

【市長】 これは原発ゼロの会が策定したというふうに聞いていまして、原子力資料情報室——これも反対派でありますけれども、その意見に基づいて書いた、そして評価したということでございますから、そのような立場の皆さん方がつくれば当然そういうふうな形で評価されると思います。それはやはり科学的根拠に基づいて、もっとしっかりしたところのデータで判断されるべきだというふうに思っていますので、原発ゼロの会の皆さん方が出すんですから、その人らの出したものだというふうに思っています。

【記者】 慎重派というか反対派の方がつくったものだから仕方ないということだと思んですけども、一方で保安院のいろんな行動から見ても、敦賀原発の1号機にかかわらず2号機もとめようというような意思を感じるんです。そういったことに関して、何か国への不信だとか、いら立ちとかはありますか。

【市長】 心配があるんですから、それをしっかり確認をしていくのは当然だと思います。そういう意味では、破碎帯があるということであれば、その今度は確認をするということでもありますので、そういうものをしっかり見守っていくしかないと思っています。

【記者】 なぜ敦賀原発だけこんなという、そういった思いというのはないですか。

【市長】 全国各地にたくさん場所がありますので、とりあえず目立つ場所ということ選ばれてしまったのかもしれませんが。

【記者】 使用済み核燃料のことでお伺いしたいんですけども、知事が再稼働を容認するとき、使用済み核燃料を県外へ搬出するというふうなことも少し触れてあったと思んですけども、市長としては、使用済み核燃料は市内で保管してもいいのか、それとも外に出すべきか、それとも両方で協力すべきか、どういうふうにお考えですか。

【市長】 本来、私ども、使用済み核燃料というのは当然サイト内から、また立地地域から持って行っていただくという、ある程度分担して、私どもは発電をやっていく、しかしそういう処理をするのはまたみんなで作っていただくというスタンスであります。ところが、なかなか中間貯蔵施設をつくらうと思ってもできないという今大変な時期を迎えています。立地自治体によっては、うちでそんなの引き受けるよというところも現にございます。敦賀がどうやるかということは、やはりこれから議会の意見、またイコール市民の皆さん方の意見を聞いてから判断をしたいなと思います。

【記者】 先日、商工会議所のほうはかなり原発関連企業が厳しいというような結果を出してまして、おおい町の再稼働に関して住民説明会なんかを国が開きますと経済対策をしてくれというふうな意見がたくさんあったんです。再稼働までの流れを見ますと、原発の安全対策は進んだんですけども、結局地元の経済対策というのは余り国のほうが動いたような感じはありません。敦賀はこれから再稼働に向けてまだまだ時間があると思んですけども、より厳しくなっていくことが予想されます。そのときに国に対して経済対策を具体的に求めたいことは何かありますでしょうか。

【市長】 もちろん国策によって原子力を誘致し、そして私ども協力してきた立場であります。それが今こういうふうな状況でとまっているということは国に責任があるというふうに私思っていますので、そういう点では、具体的にどうのという項目までは出せませんが、やはり何らかの形で経済対策ができるように国にはしっかり声を出していきたいなと思います。

【記者】 先ほど国の暫定基準というのは有効というふうにお話しされていたと思んですけども、敦賀原発起動までの理想の期間というときには、規制庁が立ち上がってからいろいろクリアして再起動したいというふうに言われていたと思んですけども、敦賀の原発再起動は暫定基準でも動かしているのか、それともいろいろ調査があって結局時間がかかるだろうから規制庁の新しい基準で進めていくべきと考えているのか、どちらなのでしょう。

【市長】 先ほど言いましたように、暫定基準というのも一つのしっかりとした基準ですからそれはそれでいいです。ただ、うちの場合は1号にしても2号機にしてもまだ時間がかかるんですね。そういう意味では間違いなく規制庁が立ち上がった後になると思います。

ので、それはまたそのときに新しい規制庁の中での基準で適合していくしかないなと思っています。

【記者】 今原電が破碎帯だとか活断層の100キロの連動だとかいろいろ調査されていると思うんですけども、そのことに関して、この間、原安課に保安院の森下さんと呼んで国もしっかりとその調査に関与するよというを求めたと思うんですけども、市としては、具体的に敦賀市としてその調査にどういうふうにかかわっていくのかというのは何か決まっていることはありますか。

【市長】 市としてできることは限られていますから、協力は何でもしたいというふうに思います。あす原子力懇談会がございますので、そこでまたいろいろ説明もあるというふうに思いますから、また皆さん方も、傍聴に来ていただければと思います。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

それでは、これもちまして7月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時40分 終了